



横浜陶芸友の会だより

第157号
平成26年
1月1日発行

新しい会場でお会いしましょう

会長 高橋光男

会員の皆様、新年あけましておめでとうございませう。

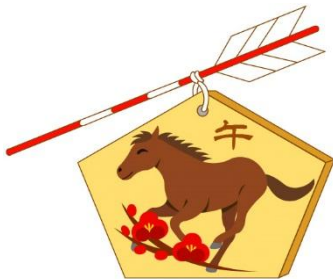
新しい年明けとともに、第35回作品展の時期になりました。今回は神奈川県民文化センター「かなつくホール ギャラリー」に会場を移しての開催となります。今年はどうな作品が並ぶのでしょうか。毎年会場で練り広げられる、作品にまつわる情報交換も楽しみの一つですね。一人でも多くの会員に参加していただき、切磋琢磨してより良い作品展が毎年開催されていくよう、役員一同努力していきますので皆様の更なるご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

同じ趣味を持つ仲間が集まり、交流を深め情報交換して、陶芸の楽しみを倍増しましょう。横浜陶芸友の会の活力は会員皆様の作陶

意欲がすべてです。専修部の催しを含めて、会員の作品制作活動に多くの支援ができる会としていきたいと思ひます。

年毎に会員の加齢は避けがたい事実ですが、そのことを踏まえて友の会の催しを企画や運営を考える時期であると思ひております。このことを今年の重要なテーマとしたいと思ひておりますので会員皆様のご意見をお聞かせください。

新年早々から、重い話題にしましたが、今年も会員の皆様のご健勝と一層の作陶活動を期待し新年のご挨拶といたします。



役員会報告

総務

11月22日錦秋の候会長副会長各部14名の方々が出席され各行事等について話し合いました。

○ 窯場見学会（参加者少数のため中止）

○ 秋期焼成会

○ 作品展（変更事項あり）

第35回作品展は永年お世話になった会場から「かなつくホール」へ移り少しスペースが小さくなりましたが、皆様の情熱のこもった作品を拝見できるのがとても楽しみです。

住所変更のお知らせ

大坪洋子さん

「作品展」のお知らせ

事業部

昨年12月はじめに、出展のご案内が届いていると思ひます。今年度は開催場所を移してまもなく始まります。

この作品展は、陶芸を愛好する会員の皆様方に、是非1点でも、一人でも多く、ご参加下さいませようお願ひ申し上げます。皆様方の出展を心よりお待ちしております。

〔場所〕 かなつくホール3階ギャラリー

A室（神奈川県文化センター内）

（JR東神奈川または京急仲木戸駅下車）

〔開催期間〕 平成26年1月14日～19日まで

〔時間〕 10時～18時

（初日は13時より 最終日は16時まで）

〔出展料〕 一区画（幅30cm） 二千元

〔特設コーナー〕 割り山椒 15cm以内

※出展料は無料

〔申し込み〕 郵送で受付

〔締切り〕 平成26年1月6日 必着

- ・会場当番も是非お願いいたします。
- ・当番は（午前） 10時～14時
- （午後） 14時～18時
- （1日） 10時～18時

〔会場設営・準備〕 1月14日（火）9時から

〔作品の受付〕 設営終了後10時30分より

※9時から、来た順に整理券を渡します。
 整理券の番号順に受付を開始します。
 出展料・友の会会費・懇親会申し込み
 等の会費の支払い後、展示場所を決め
 て行きますのでご了承下さい。

〔最終日〕 16時～集合下さい。

作品、什器を片付け清掃後解散します。
皆様の協力よろしくお願い致します。

車等で搬入される方へ

ホールには駐車場はありません。ご了承承
 ださい。上層階部は集合住宅です。居住者の
 車が出入りしますので、路上駐車はできませ

ん。近場の駐車場は、8時半過ぎには満車状
 態も見られるとの事です。出展される方は、
 公共交通機関でハンドキャリーされることを
 お勧めいたします。

ホールの開場は9時です。それまでは外部
 になりますので、作品は自己管理して下さい。
 多量（学校関係・グループ）に搬入される方
 は、できれば助手の方をお願いするか、又は
 会場に到着後、会員に頼むかして、荷降し後
 駐車場の確保をお願いします。

（その間、荷物管理をして頂くことなども考
 慮してください。）
 皆様方のご協力よろしくお願い申し上げます。

訃報

横浜陶芸友の会
 産みの親であり
 指導者である
 高木三次先生が
 九月三十日、
 九十六歳にて永
 眠なされました。
 長年のご指導に
 感謝し、ここに
 深くご冥福をお
 祈りいたします。



高木三次先生を偲んで

四代会長 江口鉦三郎

私と高木先生の出会いは、まだ新幹線が開
 通する前だった。横浜市庁舎のロビーで成人
 学級の陶芸に応募して高木先生の面接を受け
 たのが始まりである。何とかパスして私は本
 牧の陶芸センターに通うこととなった。

しかし先生とのご縁は一端切れる。成人教
 室のあとが無かった為である。仕事の関係で
 四・五年のブランクとなり再度ご縁が出来た
 のは作品展だった。

当時は横浜三越を会場に生徒の作品を展示
 即売していたと思う。広告を見て出掛け、会
 場で寒河江先生に再会し、それから上級・指
 導者教室・更に「友の会」の存在を知り後は
 もうベツタリ、先生の警咳に接することとな
 った。

以来四十数年センターの教室で事務室でま
 た引退後は先生のご自宅で陶芸を学び友の会
 の運営で指導を受けることとなった。高木先
 生は厳しくてもその中に温情溢れる心で真剣に
 友の会のことを考えて愛情を注いでくださっ
 た先生だった。

先生永い間お世話になり、本当に有難うご
 ざいました。ご冥福をお祈り致します。

合掌

平塚窯のころ

元副会長 八田高明

昭和五十四年に「平塚窯」は開かれました。平塚窯開設の、いきさつは省きますが、高木先生寒河江先生のご好意以外のもではなく、友の会としては救われた時期でした。

私は友の会役員としてセンターの高木先生とは度々お会いして、ご相談やお願いをしていました。私が私個人として先生とお話しする機会が平塚窯の帰りに訪れました。家で作り乾燥済みのものを、素焼きその後の作業のためになれない車で出かけました。受付を終わりに帰路に付くのですが、高木先生が相鉄線の海老名にお住まいであることは知っていました。夜の9時過ぎに海老名までは、茅ヶ崎から相模線で1時間に1本ぐらいしかなくドアは自分で開閉するディーゼル車だと思いうっかり「私がお送りします」といってました。わたしは相鉄の二俣川に住んでいて途中だと思えました。平塚駅前から厚木市へ向かい、はじめとおる道、もともと緊張人間である私、門沢橋から海老名へ行くところまっすぐ厚木方向に向かってしまいい次にY字路を右に行くところ気付かず左へ行く小田急のガードで右へ曲がり駅を出ました。私は本厚木も厚木もわからず、一方通行でぐるぐる回り相模川を海老名に渡り、ここまでで汗ビッシヨリ、ハンドルはヌルヌル手のひらの汗はズボンの膝



S 61.10.21 本牧陶芸センター職員一同

に吸い込ませ、遠く田畑の向こうに海老名の駅の明かりが見えました。この後先生のお宅はこの道の右側だと思いいこんでいました。近くへ来て「左へ」と言われ私の頭と手は、左と右が阿波踊りを始めましたが、夜間で交通が少なく助かりました。左からぐるるとまわってきた道の上をまたぎ右の方向へ何とかお送りすることが出来ました。その後何度かお送りしましたが2度目からはスイスイでした。二人だけの狭い車内ですが、そのつど貴重なお話を伺い、平塚窯の楽しい思い出のひとつです。先生ありがとうございました。

師ありて我が智恵あり

五代会長 高村正明

古里日南に帰って来て先生にお会いすることが出来ず、突然の訃報に、なぜ上京の折にお伺いできず今悔やまれてなりません。

先生が退職されてからは良くご自宅へ参り長時間話に夢中になり時を過ごし、ご迷惑をおかけいたしました。

ある年、お年賀のご挨拶にお伺いした折、私にテーブル脇にある引き出しを開けさせて、中にある器で御酒を頂戴致しました。

それがなんと加藤土師萌先生の器でした。手がふるえるばかりの感動で奥様の正月料理と酒と器の三拍子に最高の贅沢をさせていただき良き新年の思い出です。

陶芸は基より「庭木の剪定、日曜大工」と器用に楽しんでおいででした。

お世話になった方々に贈りたいと石膏型の花器を何点か素焼きまでされたのですが、どうしても作品に納得出来ず棚に置き去りでした。

本当にご自身の作品には頑固一徹でした。数々のお教えは、陶芸のみならず私の仕事の中にも多く宿っております。

高木先生ありがとうございました。よりご冥福をお祈り申し上げます。

高木先生の思い出

元副会長 渡邊サトル



昭和五十年代頃と思います、上級から指導者コースへと進みロクロ作業が終ると必ず後

礼が有り、先生からその日の訓示がございました。私たちがの作陶態度・同じ失敗を繰り返さない・先週の注意を聞いて無い・後片付けが遅い・協力が足りない等々、まま注意されお叱りを受ける事ばかりでございました。

そんな折三越の第二回目の展示会に私たちの作品を出品するから出来上がっても持ち帰らない様にとの御達し、反对者も居ましたが口には出せませんでした。その様な事が有り依り先生の態度は厳しく、必死で粘土と格闘する我々を横目で見ながら職員の方と薄笑いを交わし通り過ぎていく顔を今でも忘れられません。

あれから二十年余り過ぎた頃、高木先生は友の会のために専修教室を開いて下さいました。第一回目私はまず初心からと思い、湯呑

みを作り、高さが揃えば問題は無いと信じ、先生の審査を受けましたが残念、作り直してといわれた。「二個三五十瓦ではだめですよ。せめて三百瓦を切りなさい。厳しい事を云う様だが、あなたは役員でもあり、作陶の時間は無いでしょうが、新人も入会してくると、先輩として見られる立場にいるから、これもあんたのためですよ。」云われました。下を向きじつと聞いていた私は涙が出そうになった気持ちでぐっと耐え先生の顔を拝見すると今まで見たことの無いやさしい顔と言葉でございました。



11月24日「偲ぶ会」がホテル横浜ガーデンにて行われました。 撮影：吉田 透 様

専修部秋期焼成会報告及び

ビックリ木の葉天目の話

専修部 鈴木 和子

9月1日より9月29日にかけて専修部秋期焼成会が行われました。

参加者15名、個数112個合計29.24kgでした。専修部員の全8日間による協力の下、専修部の釉薬に白化粧、黒天目、ルリ釉を加え、焼成いたしました。白化粧には貫入が入り、ルリ釉は安心感のある色となり、総織部と織部の掛け合わせも落ち着いた色がありで大変良い焼成会となりました。

さて、木の葉天目ですが、友の会での隠れた努力家下村武子さんに一年前より講師をお願いし、彼女が十数年にわたり研究してきた、木の葉天目の研究結果を全部開示していただき、それに基づき今回の焼成会で来期に向けたサンプル作りを部員で行いました。

ご自宅の庭に小鳥が棕の木の実を落とし、芽を出してから木を育て上げ試行錯誤のお話ですが、この件につきましては、来期焼成会でお聞きください。

○生地に木の葉を固定させるには

○本当に木の葉が出るのか

○何月頃の葉が良いのか

○土は、釉薬は等々

打ち合わせ時点で色々な思い付きが部員の頭を巡り、いずれにしても何でもして、たとえ木の葉が出なくとも黒天目だと割り切り、楽

しい会話をいたしました。

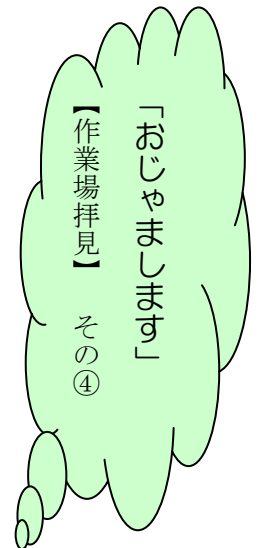
下村講師をそつちのけで勝手な話をしてる時に、ご本人いわく小さな声で「私のやり方で全体の半分以上は絶対に木の葉がでますよ。木の葉天目の作家が書いた本を何冊も読みましたが、肝心なことは皆さん書かず、作家により全部違うことが書いてあります。それらの本を参考とするのも良いのですが、とにかく自分で色々考え、特に木の葉を付けるときは、作品に対する集中力が大切です。」と部員を収めるに始まり早一年いよいよ本焼き窯出します。

開けてビックリ窯の内。一つ一つ大切にしながら色々な思いが巡ります。ビックリです木の葉が付いている作品がありました。引き渡し時に、作品を手しながらそれぞれの思いを存分に話し合いました。

- 木の葉が出ないものは、釉薬の掛け方か
- 生地と釉薬の相性か
- 木の葉の接着方法か
- 焼成温度か、等々

とにかく全員で釉薬作品は難しいとの一言でした。初めての作品作りに良い課題と時間を頂き、焼成会万歳。さあこれからです。下村さん有り難うございます。

焼成会作品の紹介は、1月の作品展会場にコーナーをお願いいたしました。作品をご覧になり専修部員と作品談義を致しましょう。会員皆様の来期秋期焼成会参加を部員一同お待ちしております。



焼成窯を持ち、日夜作陶に勤しんでいる会員の方をお訪ねし、その作業場や作品作りへの思いなどを、皆様にご紹介していく第四回目は、昨年度まで会長や副会長として長い間「友の会」を支えていただいた出淵僖江子さんです。



自宅の作業場で撮影

【出淵僖江子さんとの談話】
①陶芸をはじめのきっかけは？

・広報の一五五号にも書きましたが昭和58年、「これからの人生で何かをやりたい」と思い陶芸センターのことを知り、そこに通い始めたのが陶芸を始めるきっかけでした。そこを卒業し、勧められるままに「友の会」に入りいつの間にか30年が過ぎてしま

②長く続けられたのは？

・会では総務部に入れていただいたのですが、そこで諸先輩方をはじめたくさんのお友だちができて、陶芸教室のグループにも入らせていただき、のんびりと楽しく作陶生活ができました。長く続いたのはやはり、たくさんの方たちと出会え、一緒に学んだり遊んだり旅をしたりできたことが一番だと思います。

③作陶はいつおこなっていますか？

・月に一度「友の会」の仲間が集まっています。ご近所の方たちも「やりたい」というのでこちらも月に一度来ています。焼成窯は小さい電気窯で、作業場も普通の部屋を使っています。



作業場とペランダに置いた電気窯

いつも始めと終わりの「お茶会」のおしゃべりが長いのですが、その日の課題を決めて作陶しています。

私は、そろそろ「閉めたい」と思ってい

陶陶さん

作品展でお会いしましょう

第 79 号

あかほし



おしゃべりが楽しい「お茶会」

るのですが、皆さんが「続けてくれ」と言うもので閉められないんですよ。

④その他

・今年度、新しく会長・副会長が決まりその重責から解放され本当に「ホッ」としてきます。これまで多くの方々から頂いた温かなご支援に心から感謝しています。この会の先行きが少し心配ですが、体の許す限りもう少し皆様とご一緒したいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

○出淵さんのお宅は、鎌倉街道七曲近くの鍛冶ヶ谷にあるマンションの一画です。ごく普通の部屋を作業場に、出淵さんを中心に、和気藹々と御菓子を持ち寄り茶飲み話に花を咲かせ、陶芸にもいそしんでいます。いつまでもお元気で活動していただきたいと思います。

(文責) 鍋島弘義

編集後記

高木先生と親しくお話が出来たのは、「友の会便り」のインタビュー記事の取材で。三崎のご自宅へ伺ったときでした。ちょうど庭木の剪定中で、高いところから下りてこられ、ポンポンとズボンのすそをはたいてから、応接間へ案内されました。本牧教室での先生の厳しい指導のエピソードを聞いていたので少し緊張していましたが、お話を伺っている内に駄洒落を交えて「ホホーそんなことがあったかなー」と、もうすっかり、丸い好々爺になっておられました。

吉良

長年、温かい愛情をもって皆を見守ってくださった高木先生がご逝去なされ、寂しいかぎりです。長い間、有難うございました。

信岡

5年前本誌のインタビュー記事でお目にかかったのですが、祖父との思い出のない私にはステキなおじいちゃまでした。小松

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 157 号

(平成 26 年 1 月 1 日発行)
発行人 横浜陶芸友の会
会長 高橋 光男

編集責任者 広報部長 吉良謙